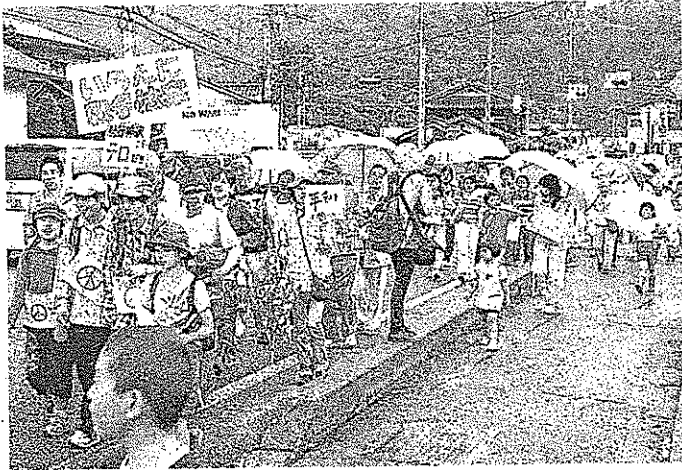


7/30
朝日

数十年ぶり 村のデモ

ウォッチ 安保国会



＝主催者提供

南アルプスを望む長野県南部の阿智村。かつて養蚕業が盛んだった人口6千人余の山あいの村で、数十年ぶりのデモがあった。安保法案が衆院を通過した翌17日、約130人が法案反対を訴え、村役場隣の診療所駐車場から国道脇を歩いた。

村は戦前から国策として旧満州（中国東北部）へ送られた満蒙開拓団の歴史を刻む。全国から渡った開拓団約27万人のうち、長野県からは最多の約3万3千人が満州に行った。養蚕業の衰退と耕地面積の狭さがその

ネットで予習 130人訴え

一因とも言われる。そして、その半数近くが敗戦の混乱の中で亡くなった。歴史を伝えようと、2年前の春、村役場近くに開拓団の記念館が開館した。

そんな村だからこそ、今行動しなくては――。元村議の井原正文さん(56)はテレビで流れる若者のデモに背中を押された。「村でもやるか」。仲間と開催を決め、新聞折り込みのチラシを作り、ツイッターでも呼びかけを周知した。

メンバーはデモ初体験。前の晩に動画投稿サイト「ユーチューブ」を見て、かけ声を勉強した。主婦の奥沢明子さん(60)は「戦争やめまい(やめよう)」と初めて外で声をあげた。前村長の岡庭一雄さん(72)も「国のやり方がおかしい時は地方がストップをかけなければ」と列に加わった。頭をよぎったのは、かつて国策に従い、自治体が多くの住民を送り出した満蒙開拓団の歴史だ。

村はこれからお盆を迎える。先祖の霊を送り火で見送った後、有志は再び活動を考えている。
(宮嶋加菜子)